



野菜の需給・価格動向レポート(平成２６年４月２８日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		3月の価格情報		4月の価格情報		生育及び価格の5月の見通し			
		平年価格 (参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額	平年価格 (参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額				
					下旬			上旬	中旬
葉 茎 菜		88.05	94	84.37	83	97	・入荷見込量：19,190t (100) ・主産地：神奈川 (50)、愛知 (38)、千葉 (8)	・神奈川産及び愛知県産は、天候に恵まれ、適度な降雨により生育の遅れも回復し肥大も順調であることから、平年並みの出荷の見込み。 ・神奈川産及び愛知産の順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		83.73	78	86.69	69	77	・入荷見込量：4,700t (90) ・主産地：愛知 (58)、大阪 (12)、兵庫 (11)、三重 (6)		
	 (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	229.99	253	264.1	221	211	・入荷見込数量：4,090t (95) ・主産地：千葉 (49)、埼玉 (20)、茨城 (14)、輸入 (4)	・千葉産は、気温の上昇により生育も順調で、平年並みの出荷となり、今後も平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、春ものの出荷は2月の雪の影響で遅れているが、同じく降雪の影響で出荷が遅れていた秋冬もののが重なり、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は概ね順調で、平年並みの出荷の見込み。 ・降雪の影響も薄れてきており、各産地とも順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年をやや下回って推移する見込み。	
		450.51	278	334.73	240	267	・入荷見込数量：210t (101) ・主産地：徳島 (27)、香川 (19)、三重 (18)、奈良 (14)、大阪 (8)、高知 (7)		
		61.12	68	67.05	59	40	・入荷見込量：6,920t (100) ・主産地：茨城 (78)	・茨城産は、降雪などの影響による一部定植の遅れから、出荷の谷間となっているものの、天候に恵まれ適度な降雨もあり生育は順調で、定植が遅れていたものが5月上旬にかけてピークを迎えることなどから、全体では順調な出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年を下回って推移する見込み。	
		68.7	71	77.96	58	51	・入荷見込量：3,000t (95) ・主産地：長崎 (31)、熊本 (24)、宮崎 (20)、茨城 (14)		
		307.66	368	376.1	403	608	・入荷見込量：1,040t (95) ・主産地：茨城 (30)、群馬 (26)、埼玉 (17)、千葉 (16)	・茨城産は、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、降雪の影響から引き続き少なめの出荷の見込み。埼玉産は降雪の影響により、現在は少なめの出荷となっているものの、天候に恵まれていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は概ね順調で平年並み若しくはやや平年を下回る出荷の見込み。 ・茨城産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っていた価格は平年並みに近づく見込み。	
		341.25	323	396.89	393	566	・入荷見込量：540t (110) ・主産地：岐阜 (29)、徳島 (29)、福岡 (25)		
		199.64	141	156.23	122	147	・入荷見込量：7,040t (95) ・主産地：茨城 (64)、兵庫 (19)、香川 (3)	・茨城産は、適度な降雨や気温により生育は順調であることから、出荷は平年並みの見込み。兵庫産も、適度な降雨により干ばつ傾向も解消されて玉の肥大も進み生育も回復したことから平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び兵庫産の順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みで推移する見込み。	
		203.61	154	165.00	125	149	・入荷見込量：1,250t (102) ・主産地：兵庫 (57)、徳島 (16)、香川 (11)、茨城 (8)、長崎 (6)		
		76.15	144	91.24	134	112	・入荷見込量：14,470t (85) ・主産地：佐賀 (54)、北海道 (37)、輸入 (4)	・佐賀産は、最近の曇雨天の影響で収穫作業が遅れ、やや少なめの出荷となっているものの、全体的に生育は順調なことから平年並みの出荷となる見込み。 ・佐賀産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
		76.15	141	91.24	137	115	・入荷見込量：4,900t (87) ・主産地：佐賀 (44)、北海道 (30)、長崎 (18)、兵庫 (7)		
果 菜		253.93	262	253.93	265	262	・入荷見込量：6,650t (90) ・主産地：埼玉 (24)、群馬 (18)、千葉 (18)、茨城 (14)	・群馬産及び埼玉産は、降雪によるハウスの倒壊などにより、現在、少なめの出荷となっており、今後も引き続き少なめの見込み。千葉産は、最近の曇雨天の影響で一時的に少くなる見込みであるものの、出荷は概ね平年並みの見込み。 ・群馬産及び埼玉産の出荷が少なめと見込まれるものの、西南暖地産が概ね生育は順調なことから、価格は、平年並み若しくは平年をやや上回って推移する見込み。	
		242.77	251	242.77	243	238	・入荷見込量：1,300t (82) ・主産地：宮崎 (42)、高知 (22)、徳島 (17)、愛媛 (7)		
		339.78	324	339.78	317	321	・入荷見込量：7,870t (100) ・主産地：熊本 (26)、栃木 (25)、愛知 (14)、千葉 (6)、茨城 (5)、埼玉 (4)	・熊本産は、小玉傾向であるが、作付面積の増加もあり平年並みの出荷の見込み。栃木産は、気温の上昇とともに草勢・肥大・品質が回復したことから増加が見込まれるため、平年並み若しくはやや多めの出荷の見込み。愛知産は最近の天候不順により一時的に少なめの出荷となっているものの、総体的には順調な生育で玉付きも良いことから、平年並みの出荷の見込み。 ・生育も回復して順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
		321.78	328	321.78	320	321	・入荷見込量：1,600t (92) ・主産地：熊本 (66)、福岡 (14)		
		347.77	337	347.77	326	331	・入荷見込量：3,250t (95) ・主産地：高知 (52)、福岡 (23)、佐賀 (6)、群馬 (2)	・高知産は、病害虫の発生もなく気温の上昇と日照量の増加に伴い、順調な生育となっており、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、夜温が上がらずに現状は少なかった前年並みの出荷であるものの、生育は概ね順調であり、今後は増加傾向になるとみられることから平年並みの出荷の見込み。 ・生育も回復して順調な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年並みで推移する見込み。	
		330.95	321	330.95	316	319	・入荷見込量：850t (100) ・主産地：高知 (32)、熊本 (23)、福岡 (16)、大阪 (13)、岡山 (11)		
		551.24	440	308.36	384	355	・入荷見込量：2,200t (100) ・主産地：茨城 (50)、宮崎 (25)、高知 (14)	・茨城産は、最近の低温傾向により、若干遅れはあるものの、総じて順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。高知産は、最近の天候不順によりやや少なめの出荷となっているものの、気温の上昇と日照量の増加に伴い、生育も回復して平年並みの出荷の見込み。 ・出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みで推移する見込み。	
		513.91	400	283.1	334	307	・入荷見込量：430t (90) ・主産地：宮崎 (55)、高知 (21)、鹿児島 (9)、茨城 (6)		
	根 菜		79.03	63	86.59	63	74	・入荷見込量：12,200 (100) ・主産地：千葉 (77)	・千葉産は、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は降雪の影響を受けたほかからの出荷があることから平年をやや下回る見込み。 ・千葉産の出荷が平年をやや下回ることが見込まれることから、平年を下回っていた価格は平年並みとなる見込み。
			80.47	72	94.24	64	64	・入荷見込量：3,300t (95) ・主産地：長崎 (42)、鹿児島 (27)、香川 (15)、徳島 (6)、福岡 (6)	
		101.05	148	156.99	138	119	・入荷見込量：8,190t (100) ・主産地：徳島 (81)、輸入 (7)	・徳島産は、天候に恵まれ順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。 ・徳島産の出荷が平年並みと見込まれること等から、平年よりやや下回って推移する見込み。	
		104.73	150	148.36	137	115	・入荷見込量：2,400t (95) ・主産地：徳島 (73)、長崎 (13)、鹿児島 (10)		

種類		3月の価格情報		4月の価格情報		生育及び価格の5月の見通し			
		平年価格 (参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額	平年価格 (参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額				
					上旬			中旬	
いも		217.95	260	—	221	221	—	〈入荷量が少ないため、見通しは省略〉	
		219.65	336	—	362	428			—
		88.17	107	131.80	108	111	・入荷見込量：10,570t（100） ・主産地：鹿児島（51）、北海道（45）		・鹿児島産は、県内の離島地域から出水地区への産地の切り替え時期となる。生育はおむね順調で、作柄も良好であり豊作であった前年より少ないものの、平年並みの出荷の見込み。 ・鹿児島産が順調な出荷が見込まれること等から平年をやや下回って推移する見込み。
		88.17	104	131.80	104	113	・入荷見込量：4,600t（95） ・主産地：鹿児島（69）、北海道（25）、長崎（6）		

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く。）。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く。）。
3 単位は円／kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。（）内は前年対比。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、2月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,646gで前年比102%、購入金額は、1,742円で同105%となり、購入数量、購入金額ともに前年をやや上回った。

また、小売物価統計によると、4月のキャベツの小売価格は、210円で過去5か年平均比85%、レタスは、368円で同79%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均をかなり下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）									
年	過去5か年平均		平成25年		平成26年				
	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	前年比	購入金額（円）	前年比	
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	103	1,775	106	
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102	1,742	105	
3月	4,836	1,772	4,961	1,769		0		0	
4月	4,747	1,838	5,019	1,809		0		0	
5月	5,103	1,902	5,257	1,861		0		0	
6月	5,092	1,885	5,249	1,897		0		0	
7月	4,423	1,712	4,456	1,783		0		0	
8月	4,324	1,713	4,422	1,741		0		0	
9月	4,768	1,803	4,577	1,863		0		0	
10月	5,238	1,861	5,225	1,932		0		0	
11月	4,993	1,671	4,852	1,806		0		0	
12月	5,142	1,882	5,152	2,093		0		0	

資料：総務省「家計調査報告（二人以上世帯（農林漁家世帯を除く））」注：過去5か年平均は、平成20～24年の平均。

主要野菜の小売価格（東京都区部）

（単位：円／kg）

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比（%）	過去5か年平均	平成26年	5か年比（%）
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	210	85	469	368	79
5月	169		0	371		0
6月	137		0	317		0
7月	153		0	322		0
8月	140		0	415		0
9月	149		0	506		0
10月	158		0	449		0
11月	162		0	421		0
12月	162		0	521		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

2 平成26年4月の値は、4月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

3月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年比107%の9万7千トン、加工野菜は同115%の15万3千トン、野菜全体は、同112%の24万9千トンとなった。このうち中国産野菜合計は同116%の12万トンとなった。
生鮮野菜、加工野菜ともに前年を大幅に上回ったことから、野菜全体も前年を上回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成24年		平成25年		平成26年1～3月		平成26年3月	
		前年比		前年比		前年同期比		前年同月比
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	274,266	120	96,566	107
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	443,233	103	152,567	115
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	717,499	109	249,133	112
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	356,186	110	120,087	116
中国産シェア	51		52		50		48	

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

品目	輸入先	平成25年3月(A)	平成26年3月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	21,892	32,777	150
	中国	15,797	23,134	146
	アメリカ	892	2,177	244
にんじん	合計	8,712	8,623	99
	中国	6,410	4,771	74
	台湾	1,273	1,181	93
ねぎ	合計	3,853	5,250	136
	中国	3,777	5,189	137

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年3月は、速報値。

4 トピック — 平成25年冷凍野菜等需給構造実態調査結果概要② —

前回に続いて、冷凍食品で使用されている原料野菜や販売先など、国産野菜、輸入野菜の需要動向について、冷凍野菜等需給構造実態調査（冷凍食品メーカー、食品卸、輸入商社へのアンケート調査等）の概要を紹介する。

（１） 冷凍食品で使用される原料野菜
国内製造の冷凍食品（冷凍野菜および野菜を使用した冷凍調理食品）に使用される原料野菜（生鮮ホール、カット、冷凍一次加工野菜）の使用量は、国産原料野菜が91%、輸入原料野菜は9%と、もっぱら国産野菜が主体である。
国内製造の冷凍食品に使用される国産原料野菜は、ばれいしょが最も多く、次いで、ほうれんそう、キャベツであった。ばれいしょは、コロッケなど冷凍調理食品のほかフライドポテト用の原料などである。

また、同様に外国産原料野菜は、たまねぎが最も多く、次いで、しょうが、かんしょである。たまねぎは、ハンバーグ、メンチカツ、かきあげなどの冷凍調理食品の原料である。
（２） 輸入冷凍野菜
販売用の輸入冷凍野菜の販売量は、「ばれいしょ」が最も多く、次いで、えだまめ、ブロッコリーである。ばれいしょは、フライドポテト用およびその他ポテト製品向けである。輸入冷凍野菜は、ボイル、成型など一次加工された半製品や小売の店頭等で直接販売される製品の形態での輸入が多い。

（３） 国産・輸入冷凍野菜の販売先
国産冷凍野菜の販売先は、食品卸売業、給食事業者が最も多く、次いで百貨店・量販店・CVS、生協、外食事業者である。一方、輸入冷凍野菜の販売先は、食品卸売業が最も多く、次いで、百貨店・量販店・CVS、給食事業、外食事業、給食事業である。
食品卸売業は、ユーザーの希望に応じて国産・外国産冷凍野菜の仕入れ・販売を行っているが、地産地消が推奨されている学校給食等の給食事業者や、フードチェーン全体を通じた安全性の確保や国産原料主体の加工食品の開発を行う生協も、国産冷凍野菜の販売先として一定の割合を占めるという特徴がある。
今回の調査結果から、冷凍食品向けの国産原料野菜の需給構造の一端が明らかになっており、今後、国産冷凍野菜の優位性や需要先と販路をより明確にした生産・供給体制の拡充が望まれる。

国内で製造されている冷凍食品に使用されている国産原料野菜（数量ベース）

野菜	割合
ばれいしょ	47.8%
たまねぎ	7.6%
ほうれんそう	8.7%
キャベツ	8.0%
スイートコーン	7.9%
にんじん	5.2%
かぼちゃ	4.6%
えだまめ	2.8%
かんしょ	2.1%
しょうが	1.4%
その他	3.7%

国内で製造されている冷凍食品に使用されている外国産原料野菜（数量ベース）

野菜	割合
たまねぎ	53.2%
しょうが	9.9%
かんしょ	7.8%
にんじん	6.2%
スイートコーン	5.8%
ばれいしょ	5.8%
えだまめ	2.0%
その他	9.2%

販売用輸入冷凍野菜（数量ベース）

野菜	割合
ばれいしょ(じゃがいも)	33.9%
えだまめ	18.9%
ブロッコリー	10.7%
ほうれんそう	10.0%
さといも	8.0%
スイートコーン	7.3%
いんげん	5.4%
その他	5.7%

国産・輸入冷凍野菜の主な販売先（数量ベース）

販売先	国産冷凍野菜 (%)	輸入冷凍野菜 (%)
百貨店・量販店・CVS	12.7%	18.5%
外食事業者	8.4%	15.9%
給食事業者(学校・病院等を含む)	26.6%	12.9%
食品卸売業者	4.7%	8.3%
生協	3.3%	1.9%
弁当・惣菜事業者	6.4%	5.0%
その他	27.0%	32.6%
消費者	0.9%	0.3%

冷凍野菜等需給構造実態調査のURL http://www.alic.go.jp/y-gyomu/yajukyu02_000176.html

◆問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 河原、斎藤、鈴木 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。